

令和5年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	5	単位数	4
教科	英語	グループ名	Sグループ		
科目等名	英語コミュニケーションⅡ				
ねらい	英語コミュニケーションⅠの基礎の上に、総合的な英語力の向上をはかる。				
担当教員	高尾 千優				
年間授業時数	140 時間				
使用教科書	三省堂 MY WAY English CommunicationⅡ				
副教材等	三省堂 MY WAY English CommunicationⅡ Workbook				

学 習 計 画

	月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容、ねらい（評価の観点）	指導の工夫 配慮事項
前期	4	Lesson 1 Dances Around the World	1 2	SV0(0=that/what 節) / SV0(0=if/whether 節) / SV0102(02=if/that/what 節)	ICT 機器を活用し、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。個々の理解度や興味・関心の度合いにあった教材を作成し、より実践的な力を図る。
	5	Lesson 2 Katsura Sunshine – Making the World Laugh	1 2	形式主語の it / 形式目的語の it	
	6	Lesson 3 Living with Nature – Takita Asuka's Journey	1 4	現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了形 / 過去完了進行形	
	7	Lesson 4 Sesame Street	1 1	SVOC(V=知覚動詞/使役動詞) / help+0+動詞の原形	
	9	Reading1 Lesson 5 From Landmines to Herbs	1 4	関係代名詞（主格） / 前置詞+関係代名詞 / 関係代名詞の非制限用法 / 関係副詞の非制限用法	
後期	10	Lesson 6 Murals – The Power of Public Art	1 4	助動詞（過去形） / 助動詞+have+過去分詞 / 完了不定詞	ICT 機器を活用し、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。個々の理解度や興味・関心の度合いにあった教材を作成し、より実践的な力を図る。
	11	Lesson 7 "Englishes" in the World	1 6	分詞構文 / 受け身・完了形の分詞構文 / 付帯状況 with	
	12	Lesson 8 Deepika Kurup – The Science Behind Clean Water	1 2	助動詞 / 助動詞+have+過去分詞 / wouldを使った表現 / 完了不定詞	
	1	Lesson 9 The World's Poorest President	1 2	仮定法過去 / 仮定法過去完了 / ifを使わない仮定法 / no matter + 疑問詞	
	2	Lesson 10 Living in an E-Society – The Pros and Cons	1 3	同格の that 節 / 強調構文 / 倒置 / 省略	
	3	Reading2 1年のまとめ	1 0	内戦下シリアの秘密図書館についての物語について、理解して考えを深め、話し合うことができる。	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	英語の語彙、表現、文法などについて理解を深めている。それらの知識を、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	英文を読み、情報や考えを整理し、その概要、要点、書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	英語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。（評価方法や評価のポイント）

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4観点から評価基準に従い、総合的に評価する。単元ごとに評価し、総合的に年間の評価を決定する。

令和5年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	5	単位数	2
教科	国語	グループ名	S グループ		
科目等名	論理国語		G1 グループ		
ねらい	社会において情報を整理し、他者の主張や論点に対する理解を深める。 対話を通して視野を広げ、構成の分析や思考力の向上、学力の定着を図る。				
担当教員	砂川さやか				
年間授業時数	70時間				
使用教科書	三省堂 「新 論理国語」				
副教材等	三省堂 「新 論理国語」 学習課題ノート				

学 習 計 画

	月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容、ねらい（評価の観点）	指導の工夫 配慮事項
前期	4	「若者に友達プレッシャー」	7	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 ・問題提起（人間関係）について、意図を読み取る。 ・共感した場面について、自分の考えをまとめる。	・ICTを活用し、適切に視覚的情報を提示する。
	5	「カタカナ語は享受すべきか」	7	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 ・外来語、漢語、和語等の違いや特徴を捉える。 ・書き手の意図を捉え、正しい日本語に対する理解を深める。	・ワークや作成プリントを使い、机間指導する。
	6	「女性/男性だから〇〇」	7	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 ・ジェンダー、男女共同参画社会、異質平等論について ・LGBT等の現代社会における背景を読み取る。 ・筆者が伝えたい意図を理解する。	
	7	「『展示』が伝えるもの」	7	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 ・広島で起きた戦争について、原爆の悲惨さを理解する。 ・「展示」における当時の記録（実物資料）の大切さを知る。 ・リニューアルされた展示が伝えるものは何かを読み取る。	
	9	「誰かの靴を履いてみること」	7	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 ・学校生活に身近な教育や権利について読み取る。 ・エンパシーとシンパシーの違いについて理解を深める。	
後期	10	「この十年をどう生きるか」	6	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 ・環境問題や地球温暖化による影響は何かをまとめる。	・ICTを活用し、適切に視覚的情報を提示する。
	11	「プラスチックごみについて考える」	6	・情報を収集し、自分の考えを提示する。	
	12	「日本マンガのブルーオーシャン戦略」	6	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 ・戦後の日本の出版社がどのように戦略したのかを考える。 ・グラフや表から読み取れることを提示する。	・ワークや作成プリントを使い、机間指導する。
	1	「学びとは何か」	8	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 ・「ケブラー」と「ブラーエ」の違いを通して、筆者が伝えたいことを読み取る。 ・状況に合わせて問題解決できるという筆者の考えを汲み取る。	
	2	「他者を理解する」	8	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 ・感情表現や意見の一致等について、理解を深める。 ・アイデンティティについて背景を知る。 ・筆者が伝えたい意図を理解する。	
	3	「すべり台社会と“溜め”」	7	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 ・進路を見据えて、筆者の意図を汲み取り、自分の意見を提示する。 ・「すべり台社会」「溜め」等の文中の語句について読み取り、具体的に説明する。	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	語句の意味や用法を正しく理解し、文中で適切に使いこなすことができる。
思考・判断・表現	文章を正しく読み、自己や他者との対話を通して理解を深める。また、思考した事柄を適切に表す力を身に付ける。
主体的に学習に取り組む態度	文章を読み、自ら問いを立て探求しようとしている。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。（評価方法や評価のポイント）

- (1) 定期考査 (2) 課題や提出物 (3) 授業中の態度

令和5年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	5年	単位数	4
教科	数学	グループ名	Sグループ		
科目等名	数学II				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Iで行った整式の演算に対する理解を深める。 ・様々な関数について理解し、グラフが描けるようにする。 ・微分法、積分法について、関数値の増減や積分と面積の関係を理解する。 ・習得した知識、技能の活用を通して数学的見方や考え方ができるようになる。 				
担当教員	渡部 遥、迫田 亮太郎				
年間授業時数	140				
使用教科書	新編数学II/実教出版				
副教材等	アクセスノート数学II/実教出版				

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	式の計算	12	整式の乗法、二項定理、整式の除法、分数式、3次式の計算や二項定理を利用し高次式の展開を理解する。整式の除法、分数式の計算方法を身に付ける。	主要な用語や公式については、練習問題を実施することで理解度を確認しながら進める。
	5	複素数と方程式	13	複素数、2次方程式、因数定理、高次方程式。実数から複素数の範囲まで拡張された数について理解する。剰余の定理、因数定理を使用した高次方程式の解き方を身に付ける。	
	6	式と証明 図形と方程式	14	等式と不等式の証明、点と直線の方程式。恒等式の意味や性質を理解し、等式、不等式の証明方法を身に付ける。2点間の距離、内分点と外分点の座標、直線の方程式について理解する。	
	7	図形と方程式	11	円、軌跡と領域。円の方程式、円と直線の位置関係を理解する。軌跡の方程式の求め方や、不等式、連立不等式の表す領域を図示できるようにする。	
	9	三角関数	14	弧度法と一般角、三角関数の性質・グラフ。一般角、弧度法での角度の表現方法を理解する。三角関数のグラフやその周期性を理解する。	
後期	10	三角関数	14	加法定理。加法定理を導き、適用できるようにする。2倍角の公式、半角の公式、三角関数の合成を理解する。	視聴覚教材を活用し、学習内容を理解しやすくする。 単元ごとに確認テストと解説を実施し、知識の確認と定着をはかる。
	11	指数・対数	14	指数関数。指数法則において、指数を正の整数から実数まで拡張した場合の計算方法を理解する。指数関数のグラフやその性質を理解する。	
	12	指数・対数	12	対数関数。指数関数から対数の性質を導き、対数法則を理解する。対数関数のグラフやその性質を理解する。	
	1	微分法	12	平均変化率と微分係数。導関数、接線の方程式。平均変化率、微分係数、導関数の意味を理解し、求められるようにする。接線の傾きや接線の方程式を求められるようにする。関数の増加・減少、極大・極小を調べ、3次までの関数のグラフを描けるようにする。	
	2	積分法	13	不定積分、定積分。面積。積分の意味を理解し、不定積分を求められるようにする。定積分を求められるようにする。定積分を応用した、面積の求め方を理解する。	
	3	復習とまとめ	11	数IIのまとめ。数学IIの総復習、演習	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・事象等を数学的に捉え、文字で表現し、方程式を解くなどの方法を身に付け、単に計算するだけでなく図やグラフをかいて計算量を減らすなどの工夫した処理ができる。 ・関数や指数対数、微積分の基本的な意味や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解き方、表現の仕方に工夫がみられるか。 ・事象を数学的に捉え、数式やグラフで表現できているか。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への主体的に参加しているか。 ・数学的な見方や処理に関心をもって取り組んでいるか。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 定期試験の実施 (2) 授業中に出す課題への取り組み方 (3) 長期休業中の課題や課題テストの実施